

越谷市における環境モニターによる居住環境評価

正会員 ○中嶋 正*1
同 須田貴之*2
同 三浦昌生*3

越谷市 居住環境評価 モニター

1. 研究の目的

スプロール化によって広がった住宅地においては、宅地開発を急ぐあまり、道路や下水道などの都市基盤が十分に整備されていない場合が多い。このような所に実際に住んでいる人から環境モニターを募集して、アンケートの回答を依頼し、開発によって市内の環境がいかに変わっていったか、また、現在の居住環境についてどう感じているかを調査する。

2. 調査都市の選定

前報¹⁾では、県中央部の東松山市を調査対象としたので、今回は県東部の市の中で、市街化調整区域内の開発許可面積が大きい越谷市を調査対象とした。

3. 環境モニターの募集

越谷市での居住環境に関するアンケートを開始するにあたって、住民から環境モニターを募集した。市内13ヶ所の公民館に募集チラシを約2ヵ月間置いたところ、21人の応募があった。その後、自治会会長に自治会員の紹介を依頼して得た4人を加え、合計25人の応募があった。内訳は、男性15名、女性10名であった。

4. アンケートの調査内容

第1回～第3回のアンケート調査は表1で示す内容で構成した。

表1 アンケート調査内容の概要

第1回	・基本属性 ・住まい周辺、市全体の住みやすさと感じる点、住みにくいと感じる点 (自由記入)
第2回	・安全性 (12項目) ・健康性・快適性 (18項目) ・利便性 (22項目) ・コミュニケーション性 (13項目) ・越谷市の環境行政についての質問 (3項目) ・総合的な質問 (総合的な住み良さ、永住希望度など4項目) 上記の項目の5段階による住まい周辺の満足度の評価 (全72項目)、自由記入欄 (7項目)
第3回	・越谷市の今後の発展の方向性 ・越谷市で自慢できること ・街づくりに市民の声が反映されているか ・「越谷アメニティ八景」の見直し、追加 ・モニターに参加した事による居住環境への関心の变化 ・居住環境をよくするために普段行っていること、今後行っていきたいこと

5. 第2回アンケート (選択式質問) 集計結果

選択式の質問については、項目ごとに満足度の高いものから5点～1点の5段階で評価し、点数付けて集計した。表2に安全性、健康性・快適性、利便性、コミュニケーション性の四指標それぞれについて、8人以上のモニターが5点、あるいは1点を付けた項目を挙げる。

安全性については、警察署・派出所が近くに無く、

火災時に延焼の危険性があるとモニターは感じている。

健康性・快適性については、河川が汚れているという項目について、モニターの21人が1点を付けており、越谷市全体の問題として取り上げるべきものである。また下水道が整備されているかという項目については、10人が5点を付け満足しているが、一方で8人が1点を付け不満を抱いている。この事から下水道の整備が行われている所と、そうでない所の地域的格差が生じていることがわかる。その他、自然の緑が少なく、年々減少しているとモニターは感じている。

利便性についてはバスの便の悪さや、娯楽施設・駐輪場の数、百貨店・スポーツ施設が遠い事に不満を感じている。

コミュニケーション性については1点が特に多い項目は無く、比較的満足度が高かった。

表2 8人以上が5点、1点を付けた質問項目

	質問項目	5点の人数	1点の人数
安全性	警察署が近くにあるか	1人	11人
	火災時の安全性	0人	9人
健康性・快適性	下水道の整備	10人	8人
	河川の汚染	0人	21人
	水道水の味	0人	10人
	自然の緑の存在	0人	8人
	緑の増減	0人	8人
利便性	バスの便利さ	0人	15人
	バス停の近さ	4人	11人
	娯楽施設の数	0人	10人
	百貨店の近さ	0人	10人
	駐輪場の数	1人	9人
	スポーツ施設の近さ	1人	9人
コミュニケーション性	地域の活動に参加しているか	14人	2人
	地域の活動に参加したいか	14人	1人

6. 第2回アンケート (自由記入式質問) 結果

【安全性】 区画整理された地区に住む一部のモニターを除いては、道路の幅や、歩道の未設置など道路状況の危険性の指摘が多かった。

(プラス評価) 「区画整理地区なので道路が整備され、見通しが良く安全である。」

(マイナス評価) 「大規模災害時の救援道路の確保が必要。路上の違法駐車が、子供や高齢者の事故の引き金になったり、火災時の緊急車両の出入りを困難にしたり、障害物、違法看板などによる標識や案内図視認が低下するのは放置できない。」

【健康性・快適性】 選択式の回答にもあったように

河川の汚れを指摘するモニターが多い。「水との共生」を目指す越谷市にとって、その看板である河川の汚れは問題であろう。早急な対策が必要である。

（プラス評価）「戸建住宅が多い関係か、日中も静かであり、ゴミの出し方もお互い気を付けていてきれいである。」

（マイナス評価）「住宅がごちゃごちゃ密集している所と、空き地になっている所とがあり、土地利用に均一性がない。河川の汚れ、特に渇水期に川底が見える時、空き缶、自転車、タイヤ、冷蔵庫など日常生活で不要になったものを川に捨てていることには憤慨する。川の美しい街にして、水と親しめる環境に市民もしたいと思っている。」

【利便性】スーパー、コンビニなどの買い物の便に関しては比較的満足度が高い。しかし、バス路線は市の規模から考えても整備されていない感がある。バス会社に何故バス路線を広げないのか聞いたところ、「バスが運行できるようなきちんとした道路が少ない」という答えだった。都市基盤の遅れが悪循環を引き起こしている例である。

（プラス評価）「駅は徒歩2分の所にあり、大変便利である。その他、診療所、スーパー、コンビニも数、距離とも申し分ない。」

（マイナス評価）「市内循環バス路線の見直しの必要大。東武伊勢崎線高架複々線延伸化事業で、越谷市南部地域の東西交流、商工の振興はアップしたので、公営バス路線は是非見直しの必要を感じる。」

【コミュニケーション性】他の指標に比べるとコミュニケーション性は、高い評価をしているモニターが多いが、新住民、旧住民との間のもめ事は存在するようである。他にも地域のコミュニティ活動に関して、積極的な人と、全く無関心な人との二極化が進んでいるとの指摘をするモニターもいた。

（プラス評価）「『禍を転じて福となす』ではないが、この地域は下水道が完備していないため、近所の人たちで、下水掃除を行っていることによって、コミュニケーションが保たれている。結果、日常的に行き来があったり、助け合いの行動が見られる。」

（マイナス評価）「新旧入り混じった地域であるが、自治会活動では、やや新住民に対する考えに「認めない」的イメージがある。地域コミュニティの円滑な運営は、新旧のカーテンを取り除くことから始めなくてはならない。」

7. 第3回アンケート集計結果

越谷市の今後の発展の方向性については、「ただ単に東京のベッドタウンとしてではなく、河川に恵まれた点を生かし、水郷越谷という独自性を伸ばしつつ、県東部の文化的、商業的中核都市に発展して欲しい」という意見が多かった。越谷市で自慢できるものという質問では、中央市民会館やこしがや能楽堂、東部清掃組合ゴミ処理施設などの近代的な公共建築物を挙げるモニターが多かった。これらの建物は外見ばかり立派で税金の無駄遣いなのではないという指摘もあったのだが、実際、自慢できるものとして挙げるモニターが多いことを考えると、多くの市民が、市の文化的シンボルとしてこれらの建物をみていると思われる。街づくりに市民の声が反映されているかという質問の集計結果を表4に、越谷アメニティ八景の見直し、追加の集計結果を表5に、モニターに参加した事による居住環境への関心の変化の集計結果を表6に示す。

表4 街づくりに市民の声が反映されているか

はい	いいえ	わからない
6人	8人	9人

(どんな形で反映されているか)
 ・昨年の秋頃、市長が自治会と対話の機会を作った。
 ・市町に朝、電話の時間があるし、昨年は市民の意見を聴く会がシリーズでもたれた。

表5 「越谷アメニティ八景」の見直し、追加

	○	×	わからない
久伊豆神社の社叢	21人	2人	0人
吉利根川の緑豊かな水辺	13人	9人	1人
元荒川の桜堤	19人	4人	0人
眺望が開け富士山が見える風景	10人	11人	2人
元荒川と葛西用水の開けた水辺	16人	6人	1人
豊かな水を満たした田園風景	13人	9人	1人
鎮守のもり	10人	10人	3人
古い家並み・宿場の面影	9人	12人	2人

(越谷アメニティ八景にふさわしい新たな景観)
 ・しらこぼと橋・花田苑・こしがや能楽堂・キャンベルタウン野鳥の森
 ・中央市民会館・橋がいくつもある綾瀬側の風景・増林、平方地域の屋敷林

表6 モニターに参加した事によって居住環境への関心が高まったか

はい	いいえ	わからない
17人	5人	1人

(どんな点で変わったか)・居住地区について根本的に考え直して対応したことから視野が大いに広がった。・災害に弱い地域の街づくりの難しさ(調整区域の市街化計画を含めて)を感じた。

8. 最後に

モニターの意見から、スプロール化の問題点である都市基盤の整備の不十分さが越谷市にも当てはまり、また街づくりに関して住民と行政との話し合いがあまりなされておらず、行政先行の街づくりになっているという印象を受けた。そういった意味で、この環境モニターによるアンケート調査を住民と行政の橋渡しにするために、今回の調査結果は市の行政に反映させるような形で生かしていきたいと考えている。なお、本研究は財団法人日本証券奨学財団の助成金によるものである。

既報

1)吉田健太郎・三浦昌生：東松山市における環境モニターによる居住環境評価，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1001-1002, 1996. 9

*1 埼玉県庁
 *2 トステム株式会社 (当時芝浦工科大学部生)
 *3 芝浦工大教授 工博

Saitama Prefectural Government
 TOSTEM Corporation
 Prof. of Shibaura Institute of Technology, Dr. of Eng.